一般質問

# 少子社会について

羽入高行　議員

**質問** 佐渡市の合計特殊出生率は1・38、国は1・29、東京は1・01。佐渡市の出生率6・9、死亡率13・8。就学後の転出は80％だ。600人卒業として毎年500人の若者が転出。出生率・死亡率は6・9ですから約500人が自然減。合計毎年1000人の人口減になる。10年で約1万人。単純にはいかないが70年後には人口がゼロになる計算だ。少子化の対策を問う。

**市長** 若い人たちが子どもを産まなくなったのは市としては大きな問題だ。今までは高齢者の対策を重要視してきたが、これからは子どもを育てる家庭に手厚い対策を行っていきたい。新年度は学童保育の整備、就学前までの医療費の助成などの予算を組んだ。財政力の弱い市ではなかなか思うようにいかない。国に期待したい。

**質問** チャイルドシートは2子目から1万円の補助となっているが100万円の予算で30人、30万円しか利用してなく助成になっていない。無料貸し出しにすべきではないか。

**総務課長** 18年度からリース・補助併用等視野に入れて検討していく。

**質問** 高齢者扶養の社会化は進んだが子育ては私的負担に任せたままでは少子化の流れは変えられない。例えば30歳以上の大人全員が負担する次世代育成基金の創設を提案する。

**市長** 財政が許す限り検討していきたい。

**質問** 次世代育成支援対策推進法が成立し、地方公共団体、事業主の行動計画の策定・公表が義務付けられているが佐渡市はどうなっているか。

**社会福祉課長** 今年度中に何とか策定して、新年度に公表する。

## 教育について

**質問** 今日3月10日は中学校の卒業式だが、教育委員会の対応はどのようにしているのか。

**教育長** 学校数が増えたので出席できない。祝辞を贈っている。

**質問** 日本、佐渡の学力は。

**教育長** 国では読解力が下がっている。十分注意していきたい。佐渡では中学校の数学が全国平均より低い。学習意欲・学力向上事業に努めている。

**質問** 二学期制について考えているか。

**教育長** 県内では柏崎市のみが全面的に行っている。新潟市はモデル校で行っている。授業時間は10時間増える。来年の夏ごろまでに検討して結論を出したい。

**質問** 小中学校の不登校の実態と対策を問う。

**教育長** 小学校では9人、中学校では36人で昨年度より若干減った。

**質問** 佐渡市育英奨学基金を創る考えはないか。

**教育長** 旧相川町だけであったが状況を見て考えていく必要がある。

**質問** 人材育成基金の取り扱いについて問う。

**企画情報課長** 平成16年度は564万4000円組んでいたが4件、33万9000円しか消化できなかった。17年度は500万円組んでいる。体験学習、地域活動、相互交流、技術者養成事業、先進地視察研修、地域活性化等シンポジウム参加費用、地域づくりのための調査研究などに利用できる。小中・高等学校の生徒も対象になる。

**質問** 活用されていないのは宣伝不足、職務怠慢としか言いようがない。佐渡市の人材育成のために、しっかり活用されたい。不要なら奨学金の基金にしたらどうか。

**市長** PRが不足していた。奨学基金は教育委員会と相談する。